令和５年の厄年（2023）

	男性	女性
前厄	平成１２年（２４歳） 昭和５８年（４１歳） 昭和３９年（６０歳）	平成１８年（１８歳） 平成　４年（３２歳） 昭和６３年（３６歳） 昭和３９年（６０歳）
本厄	平成１１年（２５歳） 昭和５７年（４２歳） 昭和３８年（６１歳）	平成１７年（１９歳） 平成　３年（３３歳） 昭和６２年（３７歳） 昭和３８年（６１歳）
後厄	平成１０年（２６歳） 昭和５６年（４３歳） 昭和３７年（６２歳）	平成１６年（２０歳） 平成　２年（３４歳） 昭和６１年（３８歳） 昭和３７年（６２歳）
幼児	令和３年生・令和２年生・令和元年生 平成２３年（十三詣り）	

お　札　・　授　物

２千円、木札　小・お守り・福豆・福引
３千円、木札　中・お守り・福豆・供物数点・お供酒、福引
５千円、木札　大・お守り・福豆・供物数点・お供酒、福引
１万円、木札特大・お守り・福豆・供物数点・お供酒、福引

※１万円のお札申込者は、豆まきできます。希望者は受付に申し出て下さい！

★福引はずれなし！豪華賞品

マスク着用、手指消毒にご協力をお願いいたします。

昭和元三大師節分会

平成二十四年より開催　節分とは、季節の分かれ目の意味で、元々は「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のそれぞれの前日をさしていた。特に冬から春になる時期を一年の境とし、立春の前日をさすようになったのが由来である。

元三大師（角大師）正式名、慈恵大師良源、第十八代天台座主で、正月三日に入寂し元三大師と呼ばれるようになった日本のおみくじの創始者であり、**角大師は厄災を祓う護符です。**世に疫病が流れ、法力をもって疫病神を退散させたのでした。鏡の前で静かに観念三昧に入られました。すると不思議なことに、骨ばかりの恐ろしい鬼の姿になりました。降魔となったお大師様の姿を弟子が描き写し、その絵を版木に彫りおこし、お札を刷って、お大師様自らが開眼の加持をされました。「この札を人々に配布して戸口に貼り付けるようにすれば、邪魔は近づかず、疫病はもとより一切の厄災から逃れられるであろう」と弟子たちに示されました。これ以来、元三大師ゆかりの寺院では、**このお札を「角大師（つのだいし）」と称して、毎年の新年に新しいお札を玄関や家の戸口に貼ることで、病気はもとよりあらゆる厄災から逃れられる護符として人々に頒けられています。**

護摩とは、護摩壇を設け護摩木を焚いて息災・増益・降伏・敬愛など本尊に祈ること、智慧の炎で煩悩焼き消す密教の修法である

鬼法楽（鬼おどり）関東唯一

京都の廬山寺（宮中の仏事を司る寺で紫式部邸宅跡）に古くから伝えられる伝統行事であり、この度許可を頂き伝統を倣う事也